

寺と稱し、慶長中に至つて住持支登は教如に
歸して寺を小松に移したが、その弟明通は准
如に従つて、庄に本寺を建立した。

カンキジ 勸歸寺 能美郡小松東町に在つ
て眞宗東派に屬する。勸歸寺は永正八年定地
坊巧逢の嗣蓮教の同郡本折大垣内に建てたも
のであるが、慶長中支登の時小松に移り、寛
永十九年前田利常から今の地を受けた。

カンキヒツロク 菅親筆録 一冊。奥村尙
寛著。寛政九年の自序があり、大極・性・心等
に分かつて儒學を説いたものである。

カンキヨウイン 觀行院 元當山派の修驗
で、寶永十五年開祖明賢之を越中彌波郡今石
動に創立したといふ。後慶應の頃金澤に出
で、並木町稻荷天満寺に寄留し、明治二年淺
野川上川除町に不動堂を建立し、三年觀行院
を觀行寺と改稱し、四年再び彦三町伴氏の舊
邸地に移り、五年修驗道の廢止せられるに及
んで眞言宗に歸入した。

カンキヨウジ 觀行寺 ↓カンキヨウイン
觀行院。

カンキヨウジ 願慶寺 石川郡吉野の下吉
野に在つて、眞宗東派に屬する。

カンキヨウジ 願慶寺 鳳至郡中に在つて、
眞宗東派に屬する。

カンキヨウジ 願行寺 金澤泉寺町祇園社
の別當で、本山派の修驗であつた。初め尾張
荒子の人勸歸院、前田利家入國の後金澤に來
り、淺野川小橋に住したが、次いでその地を
收められるに及んで泉寺町に移り、祇園社に
奉仕した。延寶の地圖に規行院と書いてある

も是で、後天和元年に願行寺と改めた。明
治二年山伏は復飾し、祇園の社號を八坂社と
した。

カンキヨウジ 願行寺 羽咋郡大儀に在つ
て、眞宗東派に屬する。初め同郡谷屋村又は
直海村に居たことがある。

カンキヨウジ 願行寺 鳳至郡二又川に在
つて、眞宗東派に屬する。能登名跡志に、『二
又川とてあり。此氏神は二王尊也。即小名に
仁王尊といふ。脇に願行寺とて一向宗あり。
是も昔は天台宗にて、色々古佛安置あり。』と
記する。

カンキヨウドクガクソウ 寒郷獨學草 二
冊。上田耕の著。大學の釋義である。

カンキヨウボウ 觀行坊 金澤六枚町光徳
寺の開祖で、天正の初め光琳寺・光徳寺・光專
寺等と共に、河北郡木越に集り近郷を横領
した。因つて八年閏三月佐久間盛政は之を攻
めたが、偶加賀に入つた長連龍も之に力を合
はせ、遂に學を隔れた。この時觀行坊は大難
刀を以て、連龍の家士加藤將監と戦うたが、
遂に將監の鎗によつて突落された。

カンキヨウボウ 願慶坊 金澤田丸町に在
つて、一向宗東派に屬する。明治十二年坊號
の公稱を許された。

カンク 岸駒 ↓キシク 岸駒。

カンクンエイメイキ 菅君榮名記 十冊。
前田利家の誕生から、萬治三年に至る記録で
ある。奥書に寶永第三之冬初望加藤隼士猶存
堂源久矩とある。久矩は葛巻昌興の初名でも
あるが、昌興は藤原氏だから、別人であらう。
又同じく菅君榮名記と題するもの一冊があつ
て、三州城地の沿革及び軍役定を記したもの

である。
カンクンザツロク 菅君雜錄 四十九冊。
高島定延著。天文七年前田利家の誕生から、
延享四年までの事を編年に集成してある。本
條の下に註釋を記載し、布達の文面もその儘
に載せた良書である。

カンケオンケイフ 菅家御案譜 一冊。前
田利家から吉治(吉徳)に至る略譜で、傍ら支
系に及んでゐる。跋に『右御當家之御由緒之
事、其御家に數代仕へ奉つて曾て知らざるは、
一向奉公の道も疎に成侍るべしと、承及たる
事共、荒増愚息が爲に書記侍り云々。享保十
九甲寅仲秋案綱子記之。』とある。

カンケケンモンシユウ 菅家見聞集 加賀
藩の臣老長氏の士出口政信の著す所。この書
前集十卷は、天文七年前田利家の誕生から貞
享元年に至る加賀藩主要の事蹟を録し、續集
四卷は貞享二年から元文三年に及んでゐる。

カンケケンモンロク 菅家見聞錄 一冊。
慶長四年増田長盛等が、前田利長の異圖ある
ことを徳川家康に告げ、家康は丹羽長重に金
澤討伐の先鋒を命じたことから起り、同五年
の大聖寺・淺井駿の役を叙したもので、最後
に寛永八年前田利常が徳川幕府の不審を蒙つ
た一節を附加してある。

カンゲツイン 閉月院 七日市藩主第十二
代前田利昭の法號。詳しくは閉月院清歌詠詠
大居士。

カンゲツテイ 觀月亭 葛巻昌興の家にあ
つた離亭で、元祿三年自ら作つた觀月亭記が
ある。六年昌興能登に流され、後荒廢に歸し
たが、寶永三年菊池武康之を自邸に移し、各
を遠月亭と改め、觀月亭記に添へる辭を作つ

た。
カンケヨウロク 菅家要錄 一冊。この書
は慶長五年大勝寺攻城淺井輔手追合と内願し
て、豐太閣覺後から起筆してある。寛文頃の
筆記かといはれる。

カンケルイフ 菅家案譜 三冊。文政七年
山崎頼母籍佩著。第一卷歴公譜は利家以來齊
泰までの略譜。第二卷系圖卷は菅原古人から
の系。第三卷庶流譜系は富山大聖寺・七日山
三家の譜である。

カンコウイン 觀光院 大聖寺藩主第五代
前田利道の子元三郎の法號。詳しくは觀光院
雪幻梅英上座。

カンコウキ 菅綱記 六冊。一名參議公御
年表。前田綱紀の誕生から、享保九年七月ま
での年表である。延享二年正審といふ者の編
する所。

カンコウヨエイ 觀光餘影 活版一冊。加
賀北村耕編。明治維新前後に於ける加越能三
州の諸家の詩歌を輯めたもの。明治十八年刊。

カンコク 甘谷 ↓ツボタカンコク 坪田
甘谷。

カンゴリ 寒垢離 寒三十日の間に金澤の
城下では、金剛院・萬寶院・乾貞寺の當山派修
驗が寒垢離を行つた。初め法螺を鳴らして、
彼等の來たことを報ずる時は、各戸手桶に水
を滿たして門前を出し、裸體の修驗は、頭を
桐油紙にて包み、腰に荒繩を巻き、疊讀三曼
陀縛日羅救云々の咒文を誦しつゝ、かの水を
頭からかぶつて去る。若し水が不淨であれば
垢離を取らない。これは鎮防火難の爲で、紙
に捻つた十二銅を報謝せられた。又俗人にも
夜間裸體若しくは淨衣を着て寒垢離を取り、